

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名：北薩地域振興局 農政普及課

課題名① 魅力ある果樹産地の育成						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適当	概ね適當	要改善		
課題の設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	4	1		・品質向上のための適正な課題である。	
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	4	1		・さらに調査対象を拡大して課題解決に努めてほしい。	
活動体制・活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	4	1		・開発総合センター等と連携しており良かった。	
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	4	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	1			
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	3		・生産者全員が集って現地検討を強化してほしい。	
活動の波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	5	0		・今後も調査・研究を続けてほしい。	・引き続き次年度の普及計画に位置づけるとともに、各種研修会等を通じて成果の普及に取り組む。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策を考えられているか	3	2			

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：北薩地域振興局 農政普及課

課題名① 魅力ある果樹産地の育成		評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
項目	評価の視点	適當	概ね適當	要改善		
課題の設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	3			・A品率の向上は地域にとって重要な課題。	
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	3				
活動体制・活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	3			・他の仮説も立てられるように情報収集をお願いしたい。	・引き続き関係機関・団体と連携した取組を進めていく。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	2	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	1	2			
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	1		・被害軽減対策となる方法があったのは良かった。	
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	2	1			
活動の波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	1	2		・改善課題の一つとして今後も検討して欲しい。	・引き続き次年度の普及計画に位置づけるとともに、各種研修会等を通じて成果の普及に取り組む。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策を考えられているか	1	2			



きんかん産地の育成

1 ブランド産地の育成(JA部会等主体活動)

- ・栽培講習会の実施
- ・品評会の実施(樹園地、果実)
- ・鉢入れ式の開催
- ・出荷協議会、出荷反省会の開催
- ・生産履歴、農薬保管簿の記帳指導
- ・販売ルートの多様化(海外輸出:市主体)
- ・GFTグループへの活動支援(事務局:市)

2 収量・品質の向上(園振協主体活動)

- ・1番花着果率向上対策
- ・年内出荷率向上対策
- ・大玉果(3L果以上)生産対策
- ・単収の向上対策
- ・障害果改善対策
- ・栽培暦の作成(海外輸出対策)

3

果樹部門の普及指導計画の構成

1 きんかん産地の育成

(1) ブランド産地の活性化

(2) 収量・品質の向上

2 新たなぶどう産地の育成

(1) 新規栽培者への支援

(2) 栽培技術の向上



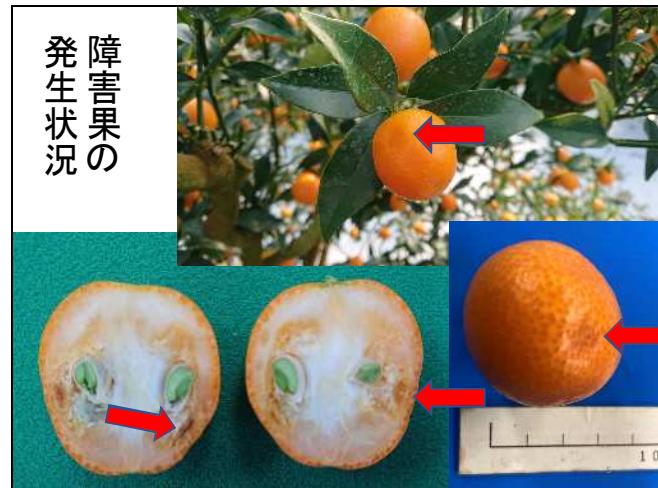
障害果改善対策に取り組んだ経緯

令和3～4年産きんかんで複数のほ場でカメムシの吸汁被害に似た障害果の発生があり、被害の大きいところでは出荷量が大幅に減少した。

南薩地域振興局管内でも発生があり、過去にも同様の被害が見られたが、原因を究明することができていない。

そこで、農業開発総合センターと南薩振興局とも連携し、調査研究を実施した。

4



原因の推測と調査項目の選定

開花期間中に灰色カビ病発生を懸念して、必要以上にかん水を控えたことにより、ホウ素等の成分が吸収できず、障害果が発生したと仮定

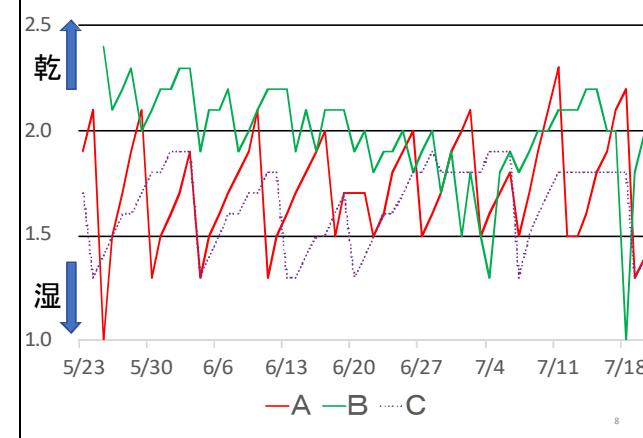
1	葉色調査	葉緑素計で各区20枚を1ヶ月ごとに測定
2	着果量調査	8月18日に各区20枝の枝長、着果数を調査 温度をデータロガーで記録 A, C農家: 6/20~12/14 B農家: 5/8~10/22
3	温度調査	土壤水分をテンションメータで測定 A, C農家: 5/23~12/4 B農家: 5/25~12/4
4	土壤水分調査	共済組合土壤分析データ活用(収穫前採取) ホウ素は開発センターで分析(5/11, 12/8採取)
5	土壤化学性調査	開発センターで分析(5/11, 12/8採取)
6	葉分析調査	生科研で分析(8/21, 1/5採取)
7	果実(果皮)分析調査	生科研で分析(8/21, 1/5採取)
8	土壤物理性調査	生科研の貫入式土壤硬度計で測定(5/22調査)
9	障害果発生調査	圃場巡回時に随時調査

調査圃の設置

調査樹の概要

圃場名	区分	調査した樹の発生状況
A	発生樹	R3, R4年連続して多発生した園で特に発生が多かった樹 R4年の出荷量は半減以上
	少発生樹	上記発生A園の中で、比較的発生の少なかった樹
B	発生樹	R3, R4年の発生が多く、収穫量が半減した園の樹
C	未発生樹	過去発生したことのない園の樹

開花期の土壤水分の推移(PF値)



きんかん土壌分析結果（ホウ素 : ppm）

採取時期	A		B		C	
	発生樹	少発生樹	発生樹	未発生樹	発生樹	未発生樹
開花期	0.74	0.58	0.50	0.30		
収穫期	1.05	0.86	0.80	0.64		

分析：農業開発総合センター

適正範囲：0.8～2.0

きんかん葉分析結果（ホウ素 : ppm）

採取時期	A		B		C	
	発生樹	少発生樹	発生樹	未発生樹	発生樹	未発生樹
開花期	35.0	34.6	31.6	19.6		
収穫期	105.0	104.0	112.0	52.6		

分析：農業開発総合センター

適正範囲：30～100

9

活動のまとめ

令和5年、6年の発生は問題にならなかった

原因をホウ素欠乏症に絞って調査したが、土壌、葉、果皮いずれの分析値も裏付けるデータはでなかった

発生を軽減するために、特に開花期間中のかん水をするように指導（対処療法的対策）したことが有効だと思われた（栽培暦の改善）

原因究明に至らなかったが、実証農家からは発生がなかったことからねぎらいの言葉

活動を展開する上で、農家との信頼関係構築が重要であることを再認識

11

きんかん園における土壌硬度調査

園主名	区分	土壌水分 (%)	1500KPa	2500KPa
			を超えた 土壌の深 さ(cm)	を超えた 土壌の深 さ(cm)
A	発生樹	34.5	18.3	30.3
	少発生樹	28.9	13.0	17.3
B	発生樹	27.0	12.0	60.0
C	未発生樹	31.7	33.0	46.3

調査日：5月22日

調査方法：貫入式土壌硬度計で測定

調査機関：生科研

参考：1500KPa以上で根の伸長が妨げられる
2500KPa以上になると根はほとんど入らない

10

さいごに

今後も、きんかん生産者の所得向上と産地の維持発展に、関係機関・団体と連携して努めてまいります。



12